

まちと農業研究所 TOKYO

設立趣意書

今日の食卓にのぼる「一皿」には、どんな可能性があるだろう？

まちと農業研究所 TOKYO は、一皿の可能性を考えます。

世界最大級の都市である東京の特徴は、市街地と農地が隣接していることです。

この都市農業という希少な資源を、もっと豊かで、もっと楽しく、もっと美味しい一皿につなげていく。その方法論を考え、発信し、そして実践していくために、本組織を立ち上げます。

本組織の目的は研究や発信だけではありません。実践を第一の柱とし、田畑や店舗といった現場から得られる経験を頼りに、新たな知見を見出していくことをミッションといたします。

エマリコくにたちは、多数の東京都内の農業生産者をネットワークする地産地消ベンチャーです。現業を持つベンチャーとして、日々、農業生産者と触れているからこそできる、あるいは消費者のリアルなニーズを把握しているからこそできる、実践や提案があります。

都市の拡大が必要とされた時代を経て、都市とみどりの併存が必要とされる時代となりました。空や風や土、あるいは季節を感じる体験が求められています。

都市とみどりが共に歩むそのような時代、都市農業の可能性とは、「多面的機能」と言われるような表面的な価値だけではなく、もっと深く、もっと広がりのあるものではないでしょうか。

都市農業の可能性の最大化には、農業者と消費者、あるいは農地と市民、その接点のデザインこそが肝要です。

まちと農業研究所 TOKYO は、農業と都市住民の多様な接点を作り出し、実りある場所になるようなデザインを希求していきます。

そうして、都市と農業がおのずと調和し、共鳴しあっている、そして、それが特に意識されるようなことでもなく当たり前になっている。まちと農業研究所 TOKYO は、そんな社会を目指します。

株式会社エマリコくにたち

代表取締役 菱沼 勇介